

「第6回日中韓女性科学技術指導者フォーラム」に参加して

特定非営利活動法人 女性技術士の会 松田徳子

「日中韓女性科学技術指導者フォーラム」は、3ヶ国の女性科学者・技術者の国際会議で、2008年より毎年、3か国のもちまわりで開催されています。昨年度の東京に続き、今年度は8月17日に、中国の内モンゴル自治区通遼市で開催されました。

冒頭のオープニングで、菅原香代子 INWES Japan 代表より、特に日本と韓国において女性参画が遅れている状況について指摘がありました。世界経済フォーラムが毎年発表している「国際男女格差レポート2013」によると、対象136ヶ国中、中国は69位、日本は105位、そして韓国は111位という低迷ぶり。アジアにおける女性参画の停滞が明らかとなっています。

さて、今回のフォーラムのテーマは、「女性、環境、暮らし」。女性たちが、正当な権利を行使しながら、知恵を最大限にいかし、経済社会発展に向けた役割を果たしていくためにはどうすればいいか。厳しい自然環境中で暮らす女性たちが、持続可能な暮らしを送るためにはどうすればいいか。そして、科学技術を通じた持続可能な経済社会発展の取り組みに、もっと女性の参画を促すためにはどうしたらいいか。フォーラムでは、このような問題意識のもと、「女性のエンパワーメント」「女性と持続可能な暮らし」そして「環境と開発のための科学」の3セッションが進められました。



第6回日中韓女性科学技術指導者フォーラム

日本からは、野呂知加子氏（日本大学教授）が司会、そして今栄東洋子氏（国立台湾科技大学教授）、吉野泰子氏（日本大学教授）、及び筆者の3名が発表者として事例紹介などを行いました。

なお、韓国の発表者には、元環境大臣のヤング・ソクヨウ氏も含まれており、フォーラムのステイタスの高さを伺わせました。同氏による「低炭素・グリーン成長政策」についての発表が、ダイナミックで刺激的な内容に富んでいたことはいうまでもありません。また中国の発表者が、繰り返し口にしていた「女性が天の半分を支えている」というフレーズに、中国の経済社会発展において、女性たちが果たしてきた役割についての強い自負を感じました。

各セッションとも、発表の後の質疑応答、意見交換はとても活発で、終日、集中度が高く、活気に満ちたやりとりが続きました。「日曜日だったのに、朝8時から夕方6時過ぎまでの長きにわたって、どうもおつかれさまでした」という閉会の挨拶で、参加者一同、今日が休日だったことに初めて思いが至ったというありさまでした。

今回のフォーラムは、直前に終戦記念日があり、中国や韓国のメディアにおいて、安倍政権の閣僚による靖国神社参拝に対する批判的なコメントが大きく取り上げられている中での開催となりました。そのような中にもかかわらず、フォーラムが、友好的な学びあいの雰囲気の中で終始したところに、これまで6回にわたって共同開催を重ねてこられたCWEST、INWES Japan、KOFWSTの相互信頼の重みと、科学技術の革新と女性の社会参画を通してよりよい社会づくりに寄与したいという科学者としての良心を感じました。私は本フォーラムに初めて参加させていただきましたが、3ヶ国の女性科学者たちが、各国の最新情報やトレンドを共有し、また率直な意見交換を行うことを通じて、個人的な親睦を深める機会となったことを感じました。貴重な機会をいただき、どうもありがとうございました。



中国の大学生は好奇心旺盛！
発表後のディブレイクにて
（左から2番目が筆者）